

# 大崎上島町認知症ケアパス

認知症の症状の進行に応じて、どの時期にどのような支援を受ければいいのかのケアの流れの目安です。  
経過には個人差があるので、必要に応じて、生活に支援を取り入れていきましょう。

(2023. 4)

認知症の状態								
	健康	認知症の疑い(MCI)	認知症を有するが日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要		
	普通の生活が変わらずできている。	物忘れはあるが、金銭管理や買い物、書類作成等を含め、日常生活は自立している	買い物や事務、金銭管理等にミスがみられるが、日常生活はほぼ自立している	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者の対応などが1人では難しい	着替えや食事、トイレ等がうまくできない	ほぼ寝たきりで意思の疎通が困難である		
本人・家族・周囲の人ができること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内での役割を持ちましょう</li> <li>・体操など体を動かす習慣を持ちましょう</li> <li>・仕事・ボランティア・趣味など、家から出かけて交流しましょう</li> <li>・いつもと違う様子があれば、早めにかかりつけ医等に相談しましょう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・早めに受診し、病気について正しく理解しましょう</li> <li>・気になる症状や将来どんな介護を受けたいかなど、自分の思いを周囲へ伝えておきましょう</li> <li>・家族やまわりの人は、接し方のコツを知りましょう</li> <li>・まわりの人は、ゆっくりと短い言葉で伝えましょう</li> <li>・消費者被害や火の元に注意しましょう</li> <li>・早めに地域包括支援センターに相談しましょう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医を持ち、受診を継続しましょう</li> <li>・できないことを無理強いないようにしましょう</li> <li>・通所サービスだけでなく、訪問や宿泊のサービスの利用も検討しましょう</li> <li>・介護者自身の健康管理をしましょう</li> <li>・介護は1人で抱え込まず、理解者や協力者を作りましょう</li> <li>・介護負担が増えるため、早めに担当のケアマネジャーや地域包括支援センターに相談しましょう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護者の健康や生活を大切にしましょう</li> <li>・介護サービスを上手に使いましょう</li> <li>・必要に応じて、施設等の情報収集をしておきましょう</li> <li>・できないことが増え、体調を崩しやすくなることを理解しましょう</li> <li>・本人が安心できる環境づくりを心がけましょう</li> <li>・終末期をどう迎えるか、家族でよく話し合い、かかりつけ医にも伝えましょう</li> </ul>	
本人や家族が利用できる制度や支援	<b>予防</b> (生活習慣病予防・運動・食事・脳トレ・社会参加・仲間づくり):クッキング講座・ふれあいサロン・ふれあいサービス・老人クラブ・公民館活動など <b>P. 1~2</b>							
	<b>相談</b> :相談窓口(地域包括支援センター・福祉課・保健衛生課)・認知症相談会・こころの健康相談・くらしの相談会・認知症初期集中支援 <b>P. 3~4</b>							
	<b>医療</b> :かかりつけ医 <b>P. 5</b>							
	<b>医療</b> :専門医療機関・認知症疾患医療センター <b>P. 5</b>							
	<b>生活支援</b> :認知症の人と家族の会・認知症カフェ・夢ハウス・配食サービス・外出支援サービス・かみじまネット ・かけはし(福祉サービス利用援助事業)・成年後見制度 <b>P. 6~9</b>							
	<b>介護</b> :介護保険サービス <b>冊子「あなたと歩む介護保険」参照</b>							
<b>その他</b> :民生委員・高齢者巡回相談員・徘徊ネットワーク <b>P. 9</b>								

\* MCIとは:Mild Cognitive Impairmentの略で軽度認知障害のことです。認知機能(記憶、決定、理由づけ、実行など)のうち1つの機能に問題が生じてはいますが、日常生活には支障がない状態のことです。健康と認知症の中間の状態といえます。